

令和6年度防衛大学校

中谷 防衛大臣訓示

卒業生の諸君、卒業おめでとうございます。

4年前の入校式では、新型コロナウイルスの感染症拡大の防止のためにご家族の方々の参加が叶わず、諸君は本校での学生生活をスタートさせたわけですが、我慢強く、忍耐強く故にここにいる同期の存在は心強く、そしてより絆を強くして4年間の修業を終え、それぞれ立派に卒業に至ったと思います。

ここで皆さんは第一に人としての修練を積み重ね、第二に幹部自衛官としての必要な知識、技能、体力を磨き、第三に指揮統率の基礎を身につけられました。皆さんは自由と規律の調和を理解した立派な士官候補生として、社会の中ではエリートとしての高みに位置付けられております。

しかし、片時も忘れてはならないこと、それはノーブレスオブリージュの精神であります。すなわち「高い地位には義務が伴う」ということです。終生に渡りこのことを胸に刻み、最後まで有用な国家の一員、教養高き社会の一員であり続けることを切に望みます。

同時に国際情勢は、大きく変化をしております。価値観も変化し、あらゆるものはとどまることなく変化し、そのスピードは早くなっております。いずれの国にも消長があり、栄枯盛衰は歴史の示すところであります。しかし、その興るや必ずそこに理由があり、また、衰えるやその理由が必ずあります。ダーウィンの法理にあるように強いものが生き残るのではなくて、変化に適応したもののみが生き残るという言葉も忘れてはなりません。

本日はホームカミングデイということで、昭和55年、45年前に卒業した、私及び同期の24期卒業生約140名がこの卒業式に参列をさせていただいておりますけれども誠にありがとうございます。ちょうどその時、山口百恵さんが人気絶頂でありまして、横須賀ストーリーなど非常に横須賀にアコガれを持った方も多かったと思いますが、ここ小原台で過ごした日々が昨日のこのように思い出される方も多いのではないのでしょうか。今日は皆さんにいい日旅立ちを送らせていただきます。

私は昨年11月、開校記念祭を視察しましたが、棒倒しの決勝戦は名勝負でした。決勝で惜しくも敗れた1大隊の総長は悔しさを抑えきれずに、涙を流しながら表彰式に臨んでおりましたが「勝って泣く、負けて泣く」この光景は卒業してから45年たちますが、彼らの姿は私たちが在籍していたころと何一つ変わっておりません。学生たちの涙からは情熱をもって勝利を目指し、全力を尽くし競い合う学生たちの強い思いに深く感動しました。古き良き母校の伝統は決してゆるぎのないものであり、そして今年度より実施を始めました女子学生による棒引き、これは非常に面白い新しいスポーツでございましたが、この新たな伝統も加わっていました。改めて母校の素晴らしさを沸々と感じたわけでございます。

そして何よりも「廉恥・真勇・礼節」諸君はこの言葉を胸に本校で人間力を磨くために学んできたかと思いますが、私も学びました、この言葉を、この意味を、今でも大切にしております。

「廉恥・恥を知れ。真勇・真の勇気を出せ。礼節・礼儀作法を重んじよ。」これは古来より日本に伝わる武士道の侍精神の言葉ではないかなという風に思いますが、すべての言葉が、自衛隊の幹部になる人にとって大切なものであり意味がある言葉であります。

自衛隊の幹部は、過酷な任務・ストレスのかかる仕事であります。諸君らは常に部下たちから見られており、決して隙を見せてはいけません。諸君らが部隊の団結の核となります。だからリーダーシップを持ち続け、何よりも人間力を日々妥協せずに磨き続け、任官後の部隊勤務などにおいて職務にまい進することをお願いしております。

そして、君たちはこれから、我が国唯一の武力集団を率いる大切な役目を担うことになる自衛隊の幹部になられますが、武力の「武」という字は「矛を止める」即ち「敵の攻撃を防ぐ」という意味と言われます。つまり強く隙のない防衛力で、侵略を抑止し、我が国の平和と独立を守るための「真の武人」として修養を重ね、任務に全力を尽くしてほしいと思います。卒業から45年、それぞれ如何なる道を歩もうとも、この小原台で築いた同期の絆は一生の絆であります。

そして、留学生の皆さん、卒業おめでとうでございます。生活環境、語学等の苦勞を乗り越えて、今日の卒業を迎えたことに心から敬意を表します。防

大同期生としてこれからも一緒に進んでほしいと思います。そして、君たちは世界を相手に活躍することになります。その役割と期待はますます大きく、是非それぞれの持ち場で世界一を目指していただきたいと思います。

「艱難汝を玉にす」という言葉があります。困難や逆境は人間を強くするという意味であります。私はここ、小原台の学生舎生活、ラグビー部の活動、そして卒業後のレンジャー訓練でそのことを学びました。強くなければ国家も国民も助けることはできない。軍事力の本質は強いことであります。強靱なこと、強く頼れる自衛隊の中核として頑張ってもらいたい。皆さんもこの小原台の生活の中で、強くなること、たくましくあること、強靱であることを学び、身につけたと思います。

今日、卒業生に送る言葉として二つ申し上げます。一つは私がラグビー部の渡辺義治先生から教えていただいた言葉であります。「我が身で悟ったものこそ真理なり」という言葉です。これはどういうことかといいますが、足も遅く、器用でない私は練習がきつくて、つらくて、レギュラー選手にもなれずに寂しい日々を送っておりました。そんな時に渡辺監督が山に登るには三つのタイプがある。一つは山を見てその高さに驚いて登るのをあきらめる人、二つ目は登っているうちに辛くなって、きつさに負けてしまって山を降りる人、そして三つ目は最後までコツコツと諦めずに登り続ける人、どれを選ぶかはその人次第であります。やはり私はラグビー部を4年間続けて本当によかったと思います。ラグビーという山を最後まで登ると今まで見えなかったものが見えてきます。それまでわからなかった出来事や、隠れていた物事の真理が見えてきて、まさにすべてを知ることができる、つまり、最後までやり通した時に、物事の真実や真理が見えてくるということになります。それこそ世の中を知ることではないでしょうか。人はやらずしていい加減な対応をして本質を誤ることがございますが、やはり本質を理解し悟ることができない人が仕事ができるわけはありません。最も大事なことは本質を理解し、我がものとしているかどうか。本質が分かっているリーダーの下では組織は混乱し、行く先も行方も分からずに迷い込んでしまう。物事を成し遂げるには、その本質を理解し、自分の信念を持って、最後まで筋を通してやっていただきたいという風に思います。

そしてもう一つは防衛大学校の防衛学の教授の春日佑芳先生から教わった道元の言葉で「ません」という言葉です。この「ません」の「ま」という

のは「磨く」そして「埴（せん）」これは瓦のことでございます。ひたすら瓦を磨く、これは禅の言葉であります、その昔、仏になるために座禅をしているところに来た老師が「お前は近頃何をやっているのか」と尋ねたところ、「はい、ひたすら座禅をしております」と答えた弟子に対して「何のために座禅をしているのか」と問うと「はい、仏になろうとしているのです」と答えると、師は突然瓦を磨き始め弟子に「仏になるために座禅をするということは、鏡にするために瓦を磨くというようなものです」と諭しました。「私が瓦をいくら磨いても鏡にはなれませんが、その道というものを念じて信じてひたすら打ち込む姿、その先に大事な心の鏡、真実を見つけることができるのではないか」とそれはある日突然見えてくるものであり、ぜひ自分自身の心の鏡を磨き続けること、これが大事であるというようなことを考えたわけでございます。

皆さんは明日の自衛隊、明日の日本を引っ張るリーダーとなるべく日本の宝となる人であります。皆さんにおいては世界が、そしてその役割と期待は益々大きくなってきておりますので、ぜひ世界一の人物を目指して仕事をしてください。皆さんの中にある心の鏡を磨いてほしいというのが二つ目の願いでございます。

そして先日、私はフィリピンの国防大臣、そして大統領に面会をいたしました。日本とフィリピンの防衛大臣会議であります。そしてワレスの空軍基地を訪問し、日本製の早期警戒データ、これを日本から供与した実物を見ましたけれども、フィリピンの兵士たちがそれを一生懸命運用して、そして周りの南シナ海海域の中国の船をずっと監視しておりました。それを見まして、やはりこういった防衛の協力をしていくということは大事であります、その際に会談の通訳をしてくれたのが、まさに防衛大学校を卒業した諸君らの先輩方でした。自分は防衛大学校の卒業生ですと私に挨拶をし、マルクス大統領やテオドロ国防相との会談にも同席をしていただいて、非常にわかりやすく日本のことを通訳をして話をしていただいたわけでございます。このように卒業生である諸君の先輩方は母国で活躍をしている姿、日本のためにも一生懸命支援をしてくれている姿、架け橋となって日本との交友協力のために懸命に取り組んでいる姿を拝見しまして、非常に心強く感動いたしました。私たちの後輩である留学生諸君が防衛大学校の卒業生であるということを誇りに思っております。どうか皆さん母国にお帰りになっても今後ともご活

躍いただきたいと心から念じます。

そして研究科を卒業された皆様、我が国を取り巻く安全保障環境は戦後最も厳しく複雑なものになっております。サイバーやドローン、無人機、知らないものがたくさん出てきておりますが、この技術というのは本当に日進月歩でありまして、早期にこれに対応していかなければなりません。諸君は研究科で学んだ高度な知識を通じて、専門性を十分に高められたかと思いますが、今後教育の成果を如何なく発揮し、さらに飛躍されることを期待いたします。各国との共同研究、共同開発、装備移転の拡大のため、さらに我々も努力をしてまいります。日本の防衛技術は今や官民協力のもと、そして各国との共同開発の時代になってきております。今後この研究科卒業生の皆様方のご活躍をお願いしたいと思っています。

そして最後になりましたけども、本日の卒業式にご臨席いただきました、ご父兄の皆様、家族会の皆様、こうして立派に成長した大切なご子息、ご息女の輝かしい姿を拝見して、安堵をもって感じておられることと思います。心からお祝いを申し上げたいと思います。また、何よりも卒業生諸君の指導に誠心誠意あたられました、愛情をもって送り出していただきました久保学校長をはじめ、教職員の皆様、本当にどうもありがとうございました。

そして今日は、地元、横須賀市、地元の国会議員をはじめ、全国から防衛関係をはじめいろいろご指導いただいております国会議員の方々、また神奈川県市町村の議会、家族会、隊友会、防衛協会の皆さんもお越しいただきまして、誠にありがとうございました。先ほど石破総理が訓示で述べられた通り、今、政府を挙げて各種防衛部の抜本的強化、また自衛官の処遇、勤務環境の改善に取り組んでいるところでございますが、委員会の中でもご質問いただいておりますけれども、自衛官であることが誇りであるというふうに仕事ができるように、政府も一生懸命やってほしいというご意見いただいておりますが、これも我々も頑張りますけれども、国民の皆さん力を合わせてですね、この自衛隊というものをストレートに活動できるようにしていきたいと思っています。

そして最後に、卒業生の皆さん、任重く、道は遠いかもしれませんが、これからも日々些事をおろそかにせず、修養に努めてほしいと思います。論語に「任重く道は遠いかもしれないが、これからも日々些事を疎かにせず修養

に勤めつつけてほしい」という言葉が書かれております。国民の信頼に背かない道に洋の東西はありません。ここ小原台での経験、小原台での友情を礎として、日本やそれぞれの国におきまして、国民の期待にこたえる存在になっていただくことを、卒業生の一人として切に願ってやみません。

あらためまして、卒業生の皆さん、卒業生の皆さんおめでとうございます。全卒業生の未来に幸あれ。これからも頑張ってください、おめでとうございます。

令和7年3月22日

防衛大臣 中谷 元